

令和7年度

印旛地区教育研究会

定期総会

令和7年5月9日（金）

印旛地区教育研究会



議決用QRコード

次 第

1 報告

- (1) 令和6年度 事業報告
- (2) 令和6年度 会計決算報告
- (3) 令和6年度 会計監査報告
- (4) その他

2 議事

- (1) 令和6年度 事業並びに決算承認に関する件
- (2) 令和7年度 事業並びに予算に関する件
- (3) 令和7年度 役員選出に関する件
- (4) 令和7年度 理事承認に関する件

【報告事項】

(1) 令和6年度事業並びに決算報告

①事業の重点

- 1 研究部活動の充実と見直し
- 2 第74次教研の印旛支部との共同推進
- 3 教研活動の充実
- 4 教育講演会の充実
- 5 各種研究学校への協力
- 6 印教研運営の充実と見直し
- 7 各市町教委との連携による研修（体系）の充実

②事業報告

<令和6年>

- 4月 5日（金） 第1回役員会（印旛教育会館）
4月 9日（火） 会計監査（印旛教育会館）
4月10日（木） 第1回理事・研究部長会議（印旛教育会館）
4月 各部会定期総会・研究部総会
4月17日（水） 第2回役員会（印旛教育会館）
5月 9日（火） 印旛地区教育研究会定期総会（評議員会）
6月 5日（水） 第3回役員会（印旛教育会館）
6月11日（火） 第2回理事・研究部長会議（印旛教育会館）
6月28日（金） 分科会責任者会議（印旛教育会館）
7月26日（金） 印教研教育講演会・全体会（成田国際文化会館）
講師：柳家 花緑 氏（落語家）
演題：「発達障害は私にとってギフトでした！！」
8月20日（木） 第74次印旛地区教育研究集会【領域・問題別等】
8月22日（水） 第74次印旛地区教育研究集会【教科等】
8月29日（木） 印教研負担金審議会ヒアリング（印旛郡市広域市町村圏事務組合）
10月29日（火） 令和7年度市町負担金決定 ￥2、936、000
11月 2日（土） 第74次千葉県教育研究集会
正会員47名（レポート25本）・傍聴者18名参加
司会・分科会ホスト・推進委員等…10名、共同研究者…4名
*全国教研7名参加（レポート4本）

<令和7年>

- 1月 8日（水） 第4回役員会（印旛教育会館）
1月22日（水） 第3回理事・研究部長会議（印旛教育会館）
2月28日（金） 印旛郡市教育関係行事調整委員会会議（合同庁舎）

令和6年度 研究主題一覧

研究部	研究部長	研究主題
国 語	磯 昌稔 (印旛中)	主体的・対話的で深い学びを育む国語科学習の創造 [話す・聞く] 生き生きと学び、「話す・聞く」力を高める国語科学習のあり方 [書く] 生き生きと学び、「書く」力を高める国語科学習のあり方 [読む] 生き生きと学び、「読む」力を高める国語科学習のあり方
書 写	金子ひさみ (和田小)	生きる力を育む書写教育のありかた ー基礎・基本の習得と日常の書写力の向上をめざしてー
外 国 語	岩崎 徹 (西志津中)	国際社会を生きる児童生徒に求められるコミュニケーション力の育成 [中学校] 4技能5領域を統合的に活用できるコミュニケーション能力の育成 [小学校] 言語や文化の豊かさ多様さに気づき、思いや考えを伝え合い ながら積極的にコミュニケーションを図る態度の育成
社 会	大根 雄一 (実住小)	よりよい社会の実現に寄与する「生きる力」を培う社会科学習 ～自ら課題を見だし、自らの考えを表現できる児童生徒の育成を目指して～
算数・数学	岩崎 元 (加良部小)	児童生徒の数学的に考える資質・能力を育成するための算数・数学学習はどうあったらよいか
理 科	水嶋 智巳 (根郷小)	意欲を持って、自ら『自然』にはたらきかける理科学習
生 活 科	佐藤 祐子 (小倉台小)	生きる力を育む生活科の創造 ～主体的・対話的で深い学びの実現に向けて～
音 楽	渡辺久美子 (八生小)	学びのつながりと積み重ね 主体的に取り組む授業の創造 ～音楽的な見方・考え方を働かせ、進んで音楽に親しみ、音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成するための授業づくり～
図工・美術	杉谷 浩一 (下総みどり)	造形教育は、これからも未来をつくる ～身に付けさせたい力は何かを問う～
保 健	岩崎 順子 (白井第一小)	地域・学校の実態を踏まえ、児童生徒の健康に対する意識を高める健康教育のあり方
体 育	竹内 重幸 (青菅小)	[小学校] 生涯体育・スポーツをめざす学校体育のあり方を基盤にして、運動の特性に応じた指導法の工夫改善をどのように進めたらよいか [中学校] 生涯体育・スポーツの基盤づくりを目指し、生きる力を育む保健体育学習をどのように進めたらよいか
技術・家庭	江原 雅之 (根郷中)	確かな知識と技術を身に付け、社会の変化に対応し、生活や技術を工夫し、創造する力を育む学習指導のあり方
特別支援教育	山本 健太 (内郷小)	さまざまな変化に対応した、一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援の推進と体制作り

研究部	研究部長	研究主題
学校給食	土屋 栄徳 (小竹小)	食生活の充実を目指した、給食指導の在り方 1 おいしく栄養豊かで楽しい給食を目指す 2 健康教育、食育及び給食指導を充実させる 3 望ましい食事環境づくりを推進する
学校事務	安藤 和代 (上志津中)	専門的視野を持ち、自律的・主体的に学校運営へ参画する ～人材育成を踏まえた研修体系の構築と業務改善による組織力の強化～
学校図書館	磯辺 邦彦 (四和小)	学びを広げる 知識を深める 心を育む 学校図書館 ①感動を生み出し、言葉の力を培う読書センターとしての学校図書館 ②探究的な学びを育てる学習・情報センターとしての学校図書館 ③司書教諭・学校司書を核に全校で学びを創る学校図書館 ④子どもたちの「居場所」を提供する学校図書館
安全教育	湯浅 誠 (八街南中)	子どもの安全意識を高め、実践させるには、どのように指導したらよいか
生活指導	小出 潤 (中台小)	子どもは本来よくなろうとする存在であると考え、子どもが自立し、他者と共によりよく生きるための個別的・集団的、支援・援助はどうあるべきか
道 徳	寺尾 哉 (千代田小)	豊かな心を持ち、ともによりよく生きようとする児童生徒を育てる道徳教育の推進
進路指導	澤田 法義 (臼井中)	自らの進路を切り拓くキャリア教育の推進
情報・視聴覚	宮川 佳久 (いには野小)	ICTの利用を通じて、児童・生徒が必要とする情報を正しく選択し活用する能力を身につけるための、情報・視聴覚教育の進め方はどうあるべきか。
環境教育	小島 実 (船穂小)	環境教育に関わる知識・技能の習得 ～環境教育指導者の指導力向上を目指して～
教育相談	竹尾 幸 (神宮寺小)	チーム学校における児童生徒理解とケース会議のあり方
総合的な学習	中村 千草 (小竹小)	深い学びを目指した探究的な学習の創造 ～印旛の特色を生かした総合的な学習の時間～
自立と共生	大野 香菜 (西の原小)	自分らしく生き生きと働く ～多様な働き方ができる社会をめざして～
民主的な 学校づくり	金田 友希 (橋賀台小)	情報の共有化による民主的学校の実現 －職員間の情報伝達体制の改善と働き方改革を目指して－
教育課程と 地域連携	大坂 尚弘 (佐倉中)	児童・生徒の「生きる力」を育む教育課程のあり方はどうすればよいか ～「地域の教育力を生かす」「学校の主体性を生かす」とりくみについて～
教育条件整備		

☆第74次千葉県教育研究集会正会員

※学校名は令和6年度の在籍校

No	分科会名	分散会名	氏名	学校名	氏名	学校名
1	国語教育	作文教育	松本 拓也	印西中		
		文学教育	小川 優	佐倉東中	小野寺 史歩	佐倉東中
		書写教育	多田 敦子	寺崎小	松川 淳子	印南小
		言語活動と言語の教育	永井 茜	西中	鈴木 三香子	西中
2	外国語教育	小学校				
		中学校	出井 聡子	臼井西中	清水 涼子	臼井西中
3	社会科教育	小学校	河野 宙斗	玉造小	石橋 礼太郎	小林小
		中学校	鈴木 健之	千代田中	長嶋 竜平	千代田中
4	数学教育	小学校	及川 直人	朝陽小	高嶋 友樹	朝陽小
		中学校	金谷 晨	西志津中	東樹 靖範	西志津中
5	理科教育	小学校	金親 茂樹	吉岡小	佐々木 智光	旭小
		中学校	内田 李恵	臼井中	磯部 千聖	佐倉東中
6	美術教育		金子 友里菜	いには野小		
7	音楽教育		石田 宏江	中央小	佐藤 智子	みそら小
8	技術・家庭科教育	技術教育	鈴木 達也	木刈中	吉井 達哉	玉造中
		家庭科教育	鈴木 智子	八街中	八百板 直美	八街南中
9	保健・体育	保健	安江 あかね	美郷台小	窪田 千里	本城小
		体育	佐藤 太一	間野台小	菅野 澄斗	根郷小
10	自治的諸活動と生活指導	小学校				
		中学校				
11	特別支援教育		押田 靖弘	成田小		
12	両性の自立と平等をめざす教育		安原 直子	安食台小	芝入 彩香	小竹小
13	環境問題と教育					
14	選抜制度と進路保障・キャリア教育		阿部 巧	吾妻中	相川 智哉	吾妻中
15	民主的学校づくり		岩田 ひかる	染井野小	玉本 綾菜	富里南小
16	生活科・総合学習		里城 詩織	大日小	的池 俊喜	大日小
17	情報化社会と教育・文化活動		赤澤 智恵	根郷中		
18	道徳		原 裕子	成田小	玉井 啓太	成田小
19	食教育		神明 真由美	高花小	矢野 孝子	印西中

☆第74次教育研究全国集会参加者

No	全国教研分科会名	氏名	学校名
1	歴史認識	河野 宙斗	玉造小
2	理科教育	金親 茂樹	吉岡小
3	保健・体育（体育）	佐藤 太一	間野台小
4	学校・地域の文化活動	赤澤 智恵	根郷中

令和6年度 印旛地区教育研究会一般会計決算書

自 令和6年4月 1日
至 令和7年3月31日

収 入 総 額	支 出 総 額	差 引 残 額	備 考
15,338,475	14,719,080	619,395	

【収入内訳】

項 目	本年度予算	本年度決算	比 較	備 考
1. 会 費	11,368,000	11,499,700	131,700	
1. 会 費	11,368,000	11,499,700	△ 131,700	校長・教頭4000円, 一般3600円
2. 負担金	2,936,000	2,936,000	0	
1. 負担金	2,936,000	2,936,000	0	9市町負担金(補助金)
3. 繰越金	901,648	901,648	0	
1. 繰越金	901,648	901,648	0	令和5年度繰越金
2. 研究部費残金	0	0		令和5年度研究部費残金
4. 寄付金	0	0	0	
1. 寄付金	0	0	0	
5. 預金利子	50	1,127	1,077	
1. 預金利子	50	1,127	1,077	預金利子
合 計	15,205,698	15,338,475	△ 132,777	

△はマイナスをあらわす。

【支出内訳】

項 目	本年度予算	本年度決算	比 較	備 考
1. 事務費	1,340,000	1,400,813	△ 60,813	
1. 事務費	50,000	36,211	13,789	銀行手数料等
2. 備品費	600,000	669,299	△ 69,299	パソコン賃貸料・印刷機リース料等
3. 消耗品費	200,000	226,263	△ 26,263	コピー用紙等
4. 通信運搬費	400,000	384,040	15,960	切手・はがき等
5. 旅 費	90,000	85,000	5,000	役員通信旅費
2. 事業費	9,204,000	9,189,660	14,340	
1. 調査研究費	60,000	47,520	12,480	書籍
2. 研修費	250,000	198,140	51,860	教研関係費
3. 研究部費	7,994,000	7,994,000	0	24研究部に配分
4. 研究会補助費	600,000	650,000	△ 50,000	公開研究補助等
5. 出版費	300,000	300,000	0	出版事業特別会計へ
3. 会議費	800,000	371,859	428,141	
1. 総会費	700,000	364,947	335,053	講演会費等
2. 役員会費	100,000	6,912	93,088	会場費・理事会・研究部長会議等
4. 雑 費	100,000	61,504	38,496	
1. 雑 費	100,000	61,504	38,496	慶弔関係費等
5. 負担金	3,500,000	3,494,544	5,456	
1. 負担金	3,500,000	3,494,544	5,456	千教研負担金
6. 予備費	261,698	200,700	60,998	
1. 予備費	261,698	200,700	60,998	
合 計	15,205,698	14,719,080	486,618	

△はマイナスをあらわす。

令和 6 年度 出版事業特別会計決算書

総収入額	支出総額	差引残額	備考
670,017	253,935	416,082	次年度に繰越

【収入内訳】

繰越金	369,846
積立金 (令和 6 年度分)	300,000
利息 (千銀No. 1164847)	171
計	670,017

【支出内訳】

印旛の教育出版費 (令和 6 年度分)	253,935
計	253,935

令和6年度 印旛地区教育研究会会計監査報告

令和6年度印旛地区教育研究会会計の決算監査をしましたので下記の通り報告いたします。

- 1、 収入、支出の諸表簿の記載、整理は正確であり、証拠書類もよく整理されている。
- 2、 諸表簿および預金通帳等照合した結果、正確に処理されている。
- 3、 会費の納入状況は極めて良好である。
- 4、 支出は各項目ともすべて妥当と認める。

令和7年4月8日

監事

石川 仁
鈴木 修
永野 顕真
大木 崇匡
伊藤 善啓

【 議事 】

（１）令和６年度 事業並びに決算承認に関する件

（２）令和７年度 事業並びに予算に関する件

ア 事業の重点

- ① 研究部活動の充実と見直し
- ② 第７５次教研の印旛支部との共同推進
- ③ 教研活動の充実
- ④ 教育講演会の充実
- ⑤ 各種研究学校への協力
- ⑥ 印教研の運営の充実と見直し
- ⑦ 各市町教委との連携による研修（体系）の充実

イ 教研推進計画

- ① 「教科等」分科会には１人１分科会に所属する。
＊教科等の「等」とは、「特別支援教育」・「学校給食」・「保健」・「学校事務」をいう。
- ② 「領域・問題別等」分科会には希望者が登録する。
＊研究部活動の充実・発展のために各学校教職員の６割程度の参加をお願いする。
- ③ 登録者数は必要に応じて調整する。
- ④ 各研究部で分散会を設置するなど、充実策を検討する。
- ⑤ 全体会・教育講演会は、７月２５日（金）に実施する。
- ⑥ 教研集会は、８月１９日（火）「領域・問題別等」分科会を、８月２２日（金）「教科等」分科会を実施する。
- ⑦ 開催は半日行事とする。

ウ 予算（案）

(3) 令和7年度 役員選出に関する件

「印教研会則第10条」の規定により、下記の役員を選出する。

【役員構成】

- ・ 会長 1名
- ・ 副会長 3名（校長層、教頭層、一般層より各1名）
- ・ 事務局長 1名
- ・ 事務局次長 2名
- ・ 監事 5名（各部会1名）
- ・ 理事 若干名（部会長5名、校長層2名、教頭層2名、一般層若干名）

役職		氏名	勤務校・職名
会長	(校長層)	金森 健人	四街道市立四街道西中学校・校長
副会長	(校長層)	石川 智彦	成田市立成田小学校・校長
	(教頭層)	大須賀 純	白井市立清水口小学校・教頭
	(一般層)	小甲 太郎	白井市立大山口中学校・主幹教諭
事務局長	(一般層)	山本 悠太	四街道市立大日小学校・教諭
事務局次長	(一般層)	鈴木 一馬	白井市立大山口小学校・教諭
	(一般層)	石田 純	佐倉市立臼井中学校・教諭
監事	(一部会)	林 洋子	佐倉市立上志津小学校・主幹教諭
	(二部会)	湊 康志	成田市立遠山小学校・教頭
	(三部会)	鈴木 修	白井市立池の上小学校・校長
	(四部会)	大木 崇匡	八街市立笹引小学校・教頭
	(五部会)	永野 顕慎	四街道市立南小学校・教諭

(4) 令和7年度 理事選出に関する件

役職	氏名	勤務校・職名
一部会長	田中 雅明	佐倉市立山王小学校・校長
二部会長	根本 達也	成田市立平成小学校・校長
三部会長	香取 伸嘉	印西市立小林小学校・校長
四部会長	三寺 和人	八街市立八街中学校・校長
五部会長	石川 一義	四街道市立中央小学校・校長
理事（校長層）	丸 庸仁	成田市立成田中学校・校長
理事（校長層）	寺島 光浩	印西市立牧の原小学校・校長
理事（教頭層）	土井 徹哉	八街市立実住小学校・教頭
理事（教頭層）	市村 勝敏	四街道市立大日小学校・教頭
理事（一般層）	森内 知世	白井市立七次台中学校・教諭
理事（一般層）	黒須 毅	成田市立大栄みらい学園・教諭

なお、理事につきましては、慣例に従い、後日開催されます第2回理事・研究部長会議において承認をいただきます。

令和7年度 印旛地区教育研究会一般会計予算（案）

自 令和7年4月 1日
至 令和8年3月31日

収入総額	支出総額	差引残額	備考
14,967,445	14,967,445	0	

【収入内訳】

項	目	本年度予算	前年度予算	比較	備考
1. 会費		11,412,000	11,368,000	44,000	
	1. 会費	11,412,000	11,368,000	44,000	校長・教頭4000円, 一般3600円
2. 負担金		2,936,000	2,936,000	0	
	1. 負担金	2,936,000	2,936,000	0	9市町負担金（補助金）
3. 繰越金		619,395	901,648	△ 282,253	
	1. 繰越金	619,395	901,648	△ 282,253	令和6年度繰越金
	2. 研究部費残金	0	0	0	
4. 寄付金		0	0	0	
	1. 寄付金	0	0	0	
5. 預金利子		50	50	0	
	1. 預金利子	50	50	0	預金利子
合 計		14,967,445	15,205,698	△ 238,253	

△はマイナスをあらわす。

【支出内訳】

項	目	本年度予算	前年度予算	比較	備考
1. 事務費		1,340,000	1,340,000	0	
	1. 事務費	50,000	50,000	0	銀行手数料等
	2. 備品費	600,000	600,000	0	印刷機リース料等・総会要項印刷費
	3. 消耗品費	200,000	200,000	0	更紙・コピー用紙等
	4. 通信運搬費	400,000	400,000	0	切手・はがき等
	5. 旅 費	90,000	90,000	0	役員通信旅費
2. 事業費		9,204,000	9,204,000	0	
	1. 調査研究費	60,000	60,000	0	書籍
	2. 研修費	250,000	250,000	0	教研関係費
	3. 研究部費	7,994,000	7,994,000	0	24研究部に配分
	4. 研究会補助費	600,000	600,000	0	公開研究補助等
	5. 出版費	300,000	300,000	0	出版事業特別会計へ
3. 会議費		570,000	800,000	△ 230,000	
	1. 総会費	500,000	700,000	△ 200,000	講演会費・会場費等
	2. 役員会費	70,000	100,000	△ 30,000	会場費・研究部役員会・研究部長会議等
4. 雑 費		100,000	100,000	0	
	1. 雑 費	100,000	100,000	0	慶弔関係費等
5. 負担金		3,500,000	3,500,000	0	
	1. 負担金	3,500,000	3,500,000	0	千教研負担金
6. 予備費		253,445	261,698	△ 8,253	
	1. 予備費	253,445	261,698	△ 8,253	
合 計		14,967,445	15,205,698	△ 238,253	

△はマイナスをあらわす。

印旛地区教育研究会（印教研）会則

第1章 総則

- 第1条 この会は印旛地区教育研究会（千葉県教育研究会印旛支会）といい、事務局を印旛教育会館におく。
- 第2条 この会は印旛郡・成田市・佐倉市・四街道市・八街市・印西市・白井市・富里市内の小中学校及び義務教育学校の教職員をもって組織する。
- 第3条 この会は会員の自主的な研究をすすめ、民主教育の確立と教育実践の向上をはかり、印旛郡市教育の振興に寄与することを目的とする。
- 第4条 この会は、第3条の目的を達成するため、次のことを行う。
1. 教職員の研究に関すること。
 2. 児童・生徒の文化向上に関すること。
 3. 各種教育関係団体との連絡提携に関すること。
 4. その他、目的達成に必要なこと。

第2章 機関

- 第5条 この会に次の機関をおく。
総会・理事会
- 第6条 総会は、年1回会長が招集し、役員選出・予算の審議・決算の承認及び規約の改廃、その他重要事項について議決する。ただし、必要に応じて臨時に開催することができる。
総会は、会員を代表する各校1名の代議員をもって構成する。
- 第7条 理事会は、総会につぐ決議機関で、必要により会長が招集し、この会の目的遂行に必要な事項について協議し、会の運営にあたる。
- 第8条 会議は、構成員の2分の1以上の参加によって成立し、議決は参加現員の過半数とする。

第3章 役員

- 第9条 この会に次の役員をおく。
会長 1名 副会長 3名 理事 若干名 監事 若干名
事務局長 1名 事務局次長 2名
- 第10条 会長は、会を代表し、会務を総括する。
副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。
監事は、会計を監督する。
事務局長は、庶務会計その他必要な事務を処理する。
事務局次長は、事務局長を補佐する。
- 第11条 役員の任期は、一ヵ年とし再任を妨げない。

第4章 研究組織

- 第12条 本会に研究部をおく。研究部は、研究部員の互選により研究部長を選出する。
- 第13条 研究部長は、会長が招集する研究部長会議に出席し、研究部相互の連絡調整をはかる。
- 第14条 研究部の運営については、別に研究部の定めるところによる。
- 第15条 各研究部は、事業計画書及び事業報告書を提出するものとする。
- 第16条 研究活動の円滑を図るため、地域別に部会をおく。

第5章 会計

- 第17条 この会の経費は、会費及び補助金、寄付金をもってあてる。
この会の会計は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。

第6章 附則

- 第18条 この規約は、昭和41年5月21日から実施する。
平成13年5月15日一部改正する。
平成14年5月10日一部改正する。
平成29年4月 1日一部改正する。
令和 6年1月19日一部改正する。

* 印旛地区教育研究会の成り立ちと意義

県や市町が主催する教職員の研修制度は、戦後存在せず、教職員自らが「自主研修」という形で教育実践を積み重ねてきた。その状況を脱しようと、組織的に研修を積むことができる「文化部」という組織を組合が立ち上げ、教研活動を推進するようになった。

教育研究の歴史は、1930 年に設立され、太平洋戦争のために活動を休止していた「印旛郡国語研究部」が戦後「印旛郡国語同好会」として復活したのをはじめとして、各教科及び領域の研究部が次々に設けられてきた。この研究部には、校長教頭一般教職員の区別無く自由に加入して、5つの部会（はじめは3部会）別に活動し、各研究部長が統括する方法で1966年まで続けてきた。

このような教育研究活動は、1965年のILOの条約批准と1966年の改正地方公務員法により、管理職と一般教職員が一体となって進めてきたが継続不可能となった。当時は「管理職だけの組織では教研活動は進められない。」「教育研究分野においては、管理職と一般教職員が一体となって進めるべきである。」というような声が多く上がったのである。

そこで新たに結成されたのが『印旛地区教育研究会（印教研）』である。これには、校長会や教頭会、市町村教育委員会、組合も共鳴して誕生したのである。1966年5月21日に結成され、印旛地区の教職員は全員加入し、現在に至っている。役員構成は、校長教頭一般教員の各層から選出され、民主的運営が図られている。規約には、「自主的な研究を進め、民主教育の確立と教育実践の向上を図り、印旛郡市教育の振興に寄与すること」を目的にし、①教職員の研究に関すること。②児童・生徒の文化向上に関すること。③各種教育団体との連絡・提携に関すること。④その他目的達成に必要なこと。という4つの事業を掲げた。